ＪＲ東海労ニュース
№2867
2024年11月19日
ＪＲ東海労働組合

「森下を支える」ために脱退??
理解不能・矛盾・無展望！

１１月１４日、森下暢紀、薮秀一、田村浩彰が脱退しました。３人は、脱退理由として「ＪＲ総連と共に」と口を揃えています。また、薮や田村は、「森下を支えるため」とも言っています。更に、脱退を表明している組合員も、口を揃えて同じことを言っています。この理由には全く理解ができません。

第一に、「ＪＲ総連と共に」という理由ですが、当面は「パイパン」「白紙」だというのです。これは矛盾しています。

第二に、森下を支えるためなら、何もＪＲ東海労を脱退する必要はありません。薮、田村は、６５歳専任社員満了間近です。仮に、国鉄採最後の組合員が脱退したとしても、最長で４年後には森下１人だけになってしまいます。２０２９年自然消滅です。新幹線地本ＯＢ会などは、以前から森下を支えると豪語していますが、言葉だけで具体的に何をどうするのかはハッキリしていません。４年足らずで組織が消滅することが分かっていて、なぜ森下を支えることになるのでしょうか。ＪＲ総連内で組織展望があるとは思えません。逆にＪＲ東海労組合員は、継続組合員として平成採組合員を支え共に闘うことを表明しています。

第三に、森下を支えるための具体的方針がないことです。運動で支えるのか、金銭的に支えるのか、ハッキリしていません。６５歳間近の人間が支えるとしても僅か数ヶ月の時間しかありません。「継続組合員で支える」と主張している脱退者がいますが、当の本人は「俺は継続組合員にはならない」と言い続けてきたのです。仮に継続組合員の意思があるとしても、ＪＲ総連はこの間の経緯から継続組合員を認めません。これも矛盾しています。

第四に、「森下を支える」を合言葉にして脱退者を組織化していますが、オルグにより洗脳されているとしか考えられません。かつて「バスに乗り遅れるな」を合言葉に、会社や御用組合の口車に安易に乗せられたことを忘れてはなりません。「森下を支えるために自分は何をするのか」が全く語られていません。

脱退者らの行為は、３３年間、仲間として共に闘い、絆を強化してきた関係を、一瞬にぶち壊しました。６５歳を過ぎて、仲間がいなくなり、「あの時脱退をやめていれば良かった」と思うことは目に見えています。時既に遅し！